

自然システム学専攻	研究分野	分子細胞生物学	Lab. ID NS09
研究室Webサイト	<a href="http://fsowonglab.w3.kanazawa-u.ac.jp/">http://fsowonglab.w3.kanazawa-u.ac.jp/</a>		
研究課題の概要			
<p>本研究室は、哺乳動物細胞ではすべての遺伝的情報は核内に存在しているが、その遺伝情報は核膜上に開いている核膜孔を通して細胞質に運ばれ、これをもとに細胞・生体機能が維持される。また、転写因子等のタンパク質もこの核膜孔を通じて核内外に移行される。このように核内外の物質輸送の制御に関わる核膜孔は生物学的にみても極めて重要であることから、この核膜孔を構成している約30種類の核膜孔複合体タンパク質に焦点を当てて複雑な生物学的機構を解明することが目的である。特に、基本的な生命現象に必須でありダイナミックな形態変化を伴う細胞分裂、細胞周期に注目している。</p>			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等			
<p>大学院生は、ラボミーティング、実験を通じて次の3つの能力を身に付けてもらいます。</p> <p>1) 専門的分子細胞生物学知識(修士課程では原著論文の批評力、博士課程では研究成果の一流紙掲載を目指す)</p> <p>2) 専門的技術(分子生物・細胞培養技術、蛍光・共焦点レーザー顕微鏡やFACSなどの解析技術)</p> <p>3) 英語力(国際シンポジウムでの英語発表を目標とする)は研究室において最も重要な事柄です。このため、研究室に入ったなら、TOEICのセルフテストは必須です。500以下はイエローカードです。</p>			
研究室生活の紹介等			
<p>大学院生は、国際学会で発表し、学生自らがファーストオーサーとしてトップジャーナルへの論文投稿を行います。本研究室で博士課程を修了した際には、世界のどのような研究室でも活躍できる研究者として巣立てるように指導します。諸事情により修士課程修了後、企業などへの就職を希望している学生は、(先輩たちと同じである)大手・優良企業就職して下さい。</p>			
教員からのメッセージ			
<p>エサを与えてくれるのを待つだけの雛ではない学生—自分でエサを探しにくる学生(社会人として成功した人はエサを待っていただけだと思いますか。)—がこの研究室にマッチしています。</p>			
最近(過去3年間+必要に応じて)の修士論文題目			
修了年月	タイトル		
2021.3	核膜孔タンパク質Nup88 によるDNA損傷修復機構の解明		
2017.3	ヌクレオポリンTprの有糸分裂期における機能探索		
2016.3	神経芽腫細胞における核膜孔複合体因子Rae1-Nup98の機能探索		
2015.3	大腸癌進行に関与する核膜孔複合体因子の同定および機能解析		
2015.3	白血病誘発性核膜孔複合体NUP98融合タンパク質の機能解析		
最近(過去3年間+必要に応じて)の博士論文題目			
修了年月	タイトル		
2021.9	The role of Nucleoporin Rae1 in cell fate determination (細胞の運命制御における Rae1の機能解析)		
2019.9	” Studies on The Role of Nuclear Pore Protein Nup58 During Cell Division” (“細胞分裂期における核膜孔タンパク質NUP58の役割の研究”)		
2018.9	”Studies on the Role of Nuclear Pore Protein Translocated Promoter Region (TPR) in Carcinogenesis” (“発がんにおける核膜孔タンパク質Translocated Promoter Region (TPR) の役割の研究”)		
2018.9	Probing the Spatial-temporal Properties of the Nuclear Pore Complex (核膜孔複合体の時空間特徴の解明)		
研究室連絡先メールアドレス	Richard Wong <rwong *at* staff.kanazawa-u.ac.jp>		